

製品名: サイクリン E2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09598**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	46kDa

抗原情報

遺伝子名	CCNE2
別名	CCNE2; G1/S-specific cyclin-E2
遺伝子 ID	9134.0
SwissProt ID	O96020
免疫原	抗血清はヒトサイクリン E2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 355-404

背景

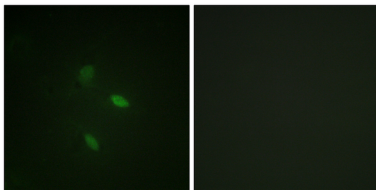
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、高度に保存されたサイクリンファミリーに属し、そのメンバーは細胞周期を通してタンパク質存在量の劇的な周期性によって特徴付けられる。サイクリンは CDK キナーゼの調節因子として機能する。異なるサイクリ

ンはそれぞれ異なる発現および分解パターンを示し、各有糸分裂イベントの時間的調整に寄与する。このサイクリンは CDK2 と複合体を形成し、その調節サブユニットとして機能する。このサイクリンは CDK 阻害剤の CIP/KIP ファミリーと特異的に相互作用することが示されており、細胞周期の G1/S 遷移に役割を果たす。この遺伝子の発現は G1-S 期にピークに達し、サイクリン E1 とは異なる組織特異性のパターンを示す。腫瘍由来細胞では、この遺伝子の発現レベルが有意に増加していることが観察された。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],機能:G1 後期および S 期初期の細胞周期の制御に必須です。誘導:パピローマウイルス腫瘍タンパク質 E6 および E7 によって活性化され、それぞれ p53 および Rb に結合して不活性化します。PTM:CDK2 によるリン酸化が CDK2 からの放出を誘発し、ユビキチンプロテアソーム経路を介して分解されます。類似性:サイクリンファミリーに属します。類似性:サイクリンファミリー、サイクリン E サブファミリーに属します。サブユニット:CDK2 (in vivo) および CDK3 (in vitro) タンパク質キナーゼと相互作用して、セリン/スレオニンキナーゼホロ酵素複合体を形成します。サイクリンサブユニットは複合体に基質特異性を付与する。組織特異性: PubMed:9858585 によると、成体精巣、胸腺、脳で最も高い発現を示す。胎盤、脾臓、結腸では低い発現を示す。腫瘍由来細胞では、非形質転換増殖細胞と比較して一貫して高い発現を示す。PubMed:9840927 によると、胸腺、前立腺、脳、骨格筋、腎臓では低い発現を示す。肺では高い発現を示す。PubMed:9840943 によると、精巣、胎盤、胸腺、脳で高い発現を示す。小腸と結腸では、発現レベルは低い。、

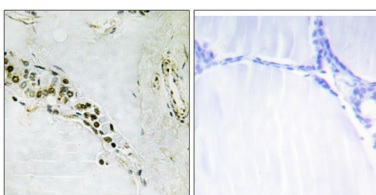
研究分野

Cell_Cycle_G1S;Cell_Cycle_G2M_DNA;卵母細胞減数分裂;p53;がんにおける経路;前立腺がん;小細胞肺がん;

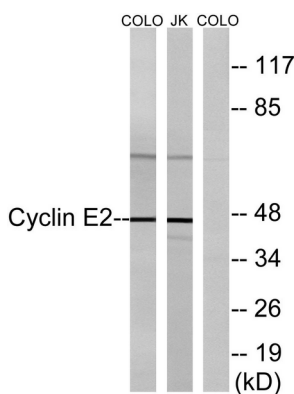
画像データ



サイクリン E2 抗体を用いた NIH/3T3 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



サイクリン E2 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト甲状腺組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



COLO 細胞および Jurkat 細胞のライセートを Cyclin E2 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。